



- 自学・自立
- 思いやり・感謝
- 鍛 錬

ジェンダー平等を実現するために

校長 小松 進一

ージェンダーギャップ指数ー

6月12日に世界経済フォーラム（WEF）が、男女格差の現状を各国の統計をもとに評価した「Global Gender Gap Report」（グローバル・ジェンダーギャップ・レポート、世界男女格差報告書）の2024年版を発表しました。日本のジェンダーギャップ指数は、146カ国中118位で、過去最低の順位だった前年（146カ国中125位）から小幅ですが順位を上げました。しかし、政治・経済の分野では低迷が続き、男女格差が埋まっていない現状が改めて示されました。この報告書は、各国の男女格差を「経済」「教育」「健康」「政治」の4分野で評価し、国ごとのジェンダー平等の達成度を指数にしています。「0」が完全不平等、「1」が完全平等を示し、数値が大きいほどジェンダーギャップが小さいということです。世界全体の総合スコアは0.685で前年（0.684）からわずかに改善しています。では、今年の子どもの総合スコアを見てみると、0.663で前年（0.647）から上昇しました。

1位は15年連続アイスランドで、スコアは0.935です。ジェンダーギャップが93.5%解消されていることを示しています。2位がフィンランド、3位がノルウェーで、上位を北欧諸国が占めました。アジアでは、フィリピン25位、シンガポール48位の順位が高く、日本は韓国94位、中国106位を下回っている状況が続いています。（参考：The Asahi Shimbun）

日本は、女性議員や閣僚が少ないこと、また、

女性管理職が少ないことや男女の収入に差があることなどから、政治・経済の分野で大きく落ち込んでいるということです。

では、男女平等を実現し、誰もが伸び伸びと個性や能力を發揮できる社会をつくるためにはどうしたらよいでしょう。

ー昨年結婚した私の長男の例で恐縮ですが、長男も嫁も働いているので家事は平等に分担しているそうです。特に夕食をつくるのは、基本的に長男の日、嫁の日と平等に決めています。食材を買う際も何を作るかを考えて購入しているそうです（もちろん、質のよいもので安いものを）。先日長男が来て、焼きそばを作ってくれたのですが、予想以上に美味しく出来上がり驚いてしまいました。昔からの固定的な役割分業（我が家では、妻も働いているにもかかわらず、どんな時でも食事は全て妻が作ります…）を変えることで、こんなにも個性や能力が花開くものかと感心（感動）しています。

男はこうあるべきとか、女はこうあるべきという考え方に縛られて、生き方や働き方の選択肢を狭めるのはもったいないことです。誰もが生まれもった可能性を最大限に伸ばし、自分の能力を社会に貢献するために使うこと、そのためにも、みんなに平等なチャンスがある社会にしていくことが大切なのだと思います。私も妻のために食事を作ってみようかな・・・（勝手にキッチンに入らないでと言われているのですが…）。



職場体験学習より